



# Clinical outcomes of prophylactic Damus-Kaye-Stansel anastomosis concomitant with bidirectional Glenn procedure

著者名	島田 勝利
発行年	2017-07-21
URL	<a href="http://doi.org/10.20780/00032084">http://doi.org/10.20780/00032084</a>

様式 (6)

## 学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2953 号	氏 名	島田 勝利
審 査 委 員 会	主 査 教 授	萩原 誠久	
<p>論文審査の要旨 (400 字以内)</p> <p>フォンタン術後の循環成立後遠隔期には心室容積減少に伴う体心室流出路狭窄を来す可能性がある。本研究の目的は両方向性グレン手術(BDG)と同時に予防的ダムス・ケイ・スタンセル (DKS) 吻合を行った症例の遠隔期の血行動態を解析することである。対象は 1996 年から 2005 年までに BDG と同時に DKS 吻合が施行された 25 例で術後平均追跡期間は <math>6.8 \pm 1.9</math> 年である。フォンタン手術 5 年後の心臓カテーテル検査では、体心室拡張末期容積正常比(%SVEDV)は DKS 術前の <math>187 \pm 74\%</math> から <math>73 \pm 14\%</math> へと有意な減少を認めたが、体心室流出路圧較差(SVOTPG)は <math>7.7 \pm 10</math> mmHg から <math>0.6 \pm 2.3</math> mmHg へと低下した。したがって、両方向性グレン手術と同時にダムス・ケイ・スタンセル吻合を行った症例では、フォンタン術後遠隔期に有意な体心室容積減少を認めたにも関わらず、体心室流出路狭窄を来さず、有効な治療法と考えられた。</p> <p>本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表)【学校教育法学位規則第 8 条】</p>			